



海外短期実習報告 (タイ)

折本 裕一、三木 一、渡邊 貴史、山本 圭介

グリーンアジア国際リーダー教育センター
助教

平成25年度グリーンアジア (GA) 正規生のカリキュラムとしてアジア地域への海外短期実習が予定されています。その教育効果の確認と実習内容確立のためのモデル事業として、GAモニター生 (6名) 及びGA教員等スタッフによるタイへの短期実習 (平成25年2月26日～3月1日) を行いました。GAプログラムの連携大学であるマヒドン (Mahidol) 大学、及び連携企業である宇部興産のタイ拠点を訪問し、セミナー・見学・意見交換会等を行いました。

1. マヒドン大学・理学部での学生交流 (2月26日、パヤタイキャンパス訪問)

タイ実習の初日 (2月26日)、首都バンコクを中心に位置するマヒドン大学理学部・パヤタイ (Phayathai) キャンパスを訪問しました。両校の参加者紹介に続き、日本側からはグリーンアジアプログラムの説明が行われ、また、タイ側からはマヒドン大学・理学部の紹介とともに、その学部教育の説明が行われました。その後、両校の教員らは各自関連分野でグループをつくり、研究協力についてディスカッションを実施しました。小グループに分かれての同分野研究者間の深い議論を行うことができ、また将来協力が可能であるという手ごたえを感じることができました。同時刻、学生らはキャンパス及びラボツアーを実施し、タイの学生生活を学びました。

最後にモデルセミナーとして、教員+学生という組合せの研究発表を両校合わせて4組 (計8人) が行い、活発な質疑応答と議論を行いました。指導する側とされる側が連続して発表することにより、問題提起・研究のねらい・実務上の困難など、様々な視点から研究を眺めることとなり大変興味深い試みとなりました。その結果、異分野の発表者に対しても活発な議論が行えたのではないかと感じており、本モデルセミナーの貴重な成果と考えています。

2. マヒドン大学・サラヤキャンパス訪問 (2月27日午前)

2月27日の実習は、バンコク中心地から少し離れた場所にあるマヒドン大学サラヤ (Salaya) キャンパスにて行われました。サラヤ

キャンパスは、前日訪れたパヤタイキャンパスよりも新しく、教養部、大学寮やサークル施設など多数の設備があり、学生は循環バスにて移動をしています。

午前中、マヒドン大学からは主に有機化学、高分子化学の分野の学生を集めた上で、九州大学との研究発表などを通して意見交換を行いました。マヒドン大学側からサラヤキャンパスの説明、国際交流事業の説明の後、永島教授からグリーンアジアプロジェクトについて説明がなされました。その後、研究紹介として、マヒドン大学側から、サラヤキャンパスにある高分子化学工学部について説明があり、また行われている研究を紹介されました。九州大学からは、山本助教、折本助教、三木助教の研究紹介の後、モニター生による研究紹介がなされました。昼食後、高分子化学工学部の研究室および実験室の見学を行いました。タイの基幹産業となる天然ゴム、合成ゴムに関する高度な研究が印象的でした。また、何よりも九州大学の学生の発表は英語が初めてとは思えないほど素晴らしいもので、この後明らかに雰囲気が活発になり、今回の実習の成功に大きく貢献したと思います。

3. タイ文化の研究センター訪問記 (2月27日午後、アジア言語文化センター)

2月27日午後、アジア言語文化センター (サラヤキャンパス内) を訪問しました。まず、センター長代理の先生より、同センターの概要及びタイ文化の詳細な解説を受けました。具体的には、まず同センターを紹介するビデオの鑑賞、その後補足説明などがあり、次いで同センター内にある博物館、図書館などのキャンパスツアーを行いました。

説明によると、同センターが最重要視しているのは言語能力、とりわけ英語を使ったコミュニケーション能力の養成であるとのことでした。語学学習に必要とされる最初のスキルはリスニングであること、英語を聞き取る能力が上達するにつれて話すこと、書くことへと能力を拡大していくべきだとの指摘でした。

タイ文化センターには、実物や模型を展示してタイの歴史文化を



2月26日 パヤタイキャンパス訪問



2月26日 モデルセミナーの様子



2月27日午前 サラヤキャンパス訪問

学ぶことができる小規模の博物館があり、同館長による詳細な説明を受けました。学生たちには、昔のタイの文化・生活様式が日本のそれとよく似ていることが印象的であるようでした。特に、同大敷地内に復元されていたタイ様式の伝統的な邸宅を実際に歩いて回り、結婚式の模倣などして楽しめたことは、とても有意義であったと思います。

4. 宇部興産(タイ)訪問記

(2月28日)

2月28日に、首都バンコクから車で2時間ほどのところにあるRayong地区の宇部興産株式会社タイ現地法人「UBE GROUP (THAILAND)」を訪問しました。

宇部興産のタイへの進出は1990年に始まり、今年で24年目になります。当初は生産拠点のみの進出でしたが、2004年からは研究開発も行っています。主力製品はナイロンやポリウレタン等の樹脂原料(カプロラクタム・ヘキサジオール等)やブタジエンゴムです。これら製品ごとおよび研究部門とで会社は分社化されており、現在では総括部門を含めて6社を構えています。

総括部門であるUBE GROUP (THAILAND)の社長はタイ人のDr. Charunya Phichitkul氏です。管理職やエンジニアには日本人スタッフが多く、現場技術者にはタイ人スタッフが多い人員構成となっています。これには、現場技術者養成のためのテクニカルカ

レッジがRayongの工業地帯に併設されているという理由があります。今後は、より高度な技術を習得したエンジニアを養成するための、工業系総合大学も設立する計画があるようです。

宇部興産のタイにおける歴史は20年余りですが、これだけの期間に巨大かつ広大な化学コンビナートを築き上げた過程には、1960～70年代の日本に通ずるものが感じられます。そういった意味で、タイは今まさに高度経済成長期真っ只中であると肌で感じました。シンガポールでもそうでしたが、東南アジアの国々は国の向かうべき指針が(少なくとも日本よりは)明確に定まっており、そのために必要な政策が積極的にとられているように感じます。

工場見学の後には現地スタッフとの意見交換会が行われ、学生から「なぜ日系企業に入社したのか」「日本人スタッフとトラブルが起きることはないか」などといった率直な質問が積極的に投げかけられ、有意義な議論ができました。

あとがき

今回のタイ短期実習では、連携大学・連携企業訪問を行い、活発な意見交換や学生交流など予想以上の成果が得られました。本実習で得た経験・知見を今後のGA正規生の海外短期実習に最大限に活かし、より有意義なカリキュラムとなるよう目指します。

以上



2月27日午後 アジア言語文化センター



2月28日 意見交換会の様子